



甲府市 薬剤師会 だより

2015年9月

公益社団法人 甲府市薬剤師会
〒400-0857 甲府市幸町14-6
電話番号055-236-5200
FAX 番号055-236-5201

皆様の健やかな暮らしを願って

創刊号

「会長あいさつ」

(公社) 甲府市薬剤師会 会長 内藤 貴夫



謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より甲府市薬剤師会の活動に対しましてご理解、ご協力を賜り感謝を申し上げる次第です。

さて、甲府市薬剤師会のもっとも大きな事業であります「救急調剤薬局」の事業につきましては、インフルエンザの流行もあり前年に比べより多くの患者さんに投薬および服薬指導を实

施いたしました。また、地域の方々からの電話相談の件数も増えてきており、地域救急医療体制の適正利用に対する啓発活動も順調に進んでおります。

学術研修会については、年間13回ほど実施をしており、多くの方々のご参加をいただいております。さらに、市民向け講演会については大変好評で、会場の山梨県立図書館多目的ホールでは立ち見も含め会場に入りきれない状況となりました。これらのことを踏まえて、今後会場の広さ等を含め運営面で検討すべき点がでてきております。中学生・高校生を対象とした「薬学および薬剤師の職能」についての理解を深めていただくためのワークショップ形式の研修会も好評で、学生からの問い合わ

せとともに、父兄や教員の方々にも多数参加をいただき大変盛況に実施することができました。

薬学生の実務実習については、Ⅲ期3名の学生を3施設で受け入れ無事終了することができました。また、今回実務実習の受入施設としての基幹薬局・協力薬局の整備のための現況調査を実施し、その状況を踏まえて平成27年度よりさらに積極的に実務実習の受け入れを進めていきたいと考えておりますので、より多くの先生方に受入施設としてのご参加、ご協力のほどをお願い申し上げます。

結びに地域の皆様方と会員の先生方のますますのご活躍をご期待申し上げます。甲府市薬剤師会近況報告とさせていただきます。

救急調剤薬局のご紹介



甲府市地域医療センターは、旧医療福祉会館敷地内の北西側に、初期救急医療機能の充実と強化を目的に、平成26年2月に竣工し、同年4月に供用が開始となりました。

構造は鉄筋造り3階建、総延床面積は約3,000㎡、駐車場収容台数135台、総工費約14億円で、設備としては感染症対策、耐震性の向上、ユニバーサルデザイン、太陽光発電等環境負荷の低減等が図られています。救急調剤薬局は、当会事務局と隣り合わせで1階東側に位置しております。3階部分には非常用薬備品等ストックスペースがあり、理事会や研修会等に利用しております。

当薬局には、夜間ご利用される患者様のために夜勤担当者用の仮眠室が2つ設けられており、深夜の時間帯でも速やかにお薬を提供することができます。また、感染症患者様用に感染室が2室設けられ、通常ご利用される方にも安心していただけるように配慮しています。受付と待合室は広く設け、利用患者の皆様にはくつろいでいただける空間を提供しています。

地域医療センターおよび救急薬局のご利用に際しましてはお薬手帳を持参されますようお願い

いたします。お薬手帳により副作用歴やアレルギー、服用中のお薬との重複や飲みあわせなどを確認し、安全・安心な治療を行うことができます。

これからも県民の皆様が安心してご利用いただける薬局を目指し職員一同邁進していく所存です。会員の皆様のご協力も併せてよろしくお願いいたします

甲府市薬剤師会 救急調剤薬局
055-236-4200

平成27年度 第1回 甲府市南包括支援センター ケアマネ交流会 参加報告



(公社) 甲府市薬剤師会

救急調剤薬局 青山 達夫

本年3月、甲府在宅ネットワークでご活躍されている当会会員で、アトム薬局宝店の藤巻徹郎氏から「平成26年度第3回南西ほうかつエリアのケアマネ交流会」に何人かの薬剤師を出席させてほしいとの依頼が、交流会の数日前にありました。日時も平日の午後で、テーマは、薬剤師の役割と視点を学ぼうというものでした。早速、南西包括のエリア周辺の在宅可能薬局へ案内を出しました。3軒の薬局薬剤師の協力が得られ交流会も盛況のうちに終了したとの報告を受けました。参加薬局の中に

は、末期のがん患者様を紹介され見取りまで経験された先生もいらっしゃいました。

6月になり、またしても、藤巻氏から標記交流会の数日前に薬剤師の出席依頼がありました。今回は日時も平日の午前中ということで非常に面喰いました。平日の午前中といえば、保険薬局では処方せん調剤の主要時間帯です。それでも出席者を募るため、甲府市内の全在宅可能薬局へ案内を出しました。この時間帯にもかかわらず私も含め5軒の薬局から参加がありました。

当日の会場は、バックミュージックが流れる和やかな雰囲気の中で交流会が行われ、当会会員の藤巻氏より「訪問薬剤管理指導と他職種連携について」と題し多くの写真を交えレクチャーが行われました。そのあとケアマネ6~7名に薬剤師1名が張付く形でグループ討議が行われ、いくつかのテーマ毎に発表が行われました。



ほとんどのケアマネさんがクライアントは薬を服用、使用していても、薬局薬剤師とのつながりがないとのことでした。在宅に関して薬局薬剤師には温度差があり、来るものは拒まず座して待つタイプが多いように見受けられます。これがケアマネ側から見るとガードが固く近寄りたく見られているのかもしれない

れません。薬局薬剤師は、調剤に忙殺され在宅には手が回らない状態の薬局が多いことは承知しております。在宅はできなくともケアマネさんの相談にのれる薬局であってほしいと痛感いたしました。これからも甲府市の各地域包括支援センターのケアマネ交流会は行われますので、時間があつたら是非参加していただきたいと思ひます。

平成 27 年度 甲府市薬剤師会 調剤事故防止研修会参加報告

(公社) 甲府市薬剤師会
医療保険委員会 日向 利公

平成 27 年 9 月 10 日 (木) に調剤事故防止に向けての研修会が甲府市総合市民会館にて催されました。当日は第一三共 (株) の学術推進課の阪本様より薬剤師のリスクマネジメントについてご講演頂きました。

近年は医療訴訟も増加傾向にあると聞いておりますので、日々現場で働くものにとってとても有益な講演であったと思ひます。



始めに最近の話題であるマイナンバー制度との関わりや医療事故調査制度の概要などに触れられてから本題に入られました。日本医療機能評価機構が収集した薬局ヒヤリ・ハットの事例か

ら医療訴訟、法的責任と対応、リスクマネジメントまで職務の重要性を改めて感じさせる内容でした。自分で振り返ってみましてもヒヤリ・ハットで留まらなかった事例が浮かんできます。専門家だから間違ふことは無いとは言えませぬ。特に生命に関わる職業に身を置いている立場ではこのミスを出せる限りゼロに近づけていかなければなりません。知識と経験は勿論必要ですが薬剤師は国家資格ですので資格があればベテランも新人も法律的には同等と判断されるとのお話もありました。

そんな中でいかにヒューマンエラーを無くしていくか、実地教育・訓練の重要性も述べていらつしやいました。薬局内でのマニュアル作りや研修も必要な事ですが、今回のような研修会の場も自己の研鑽にはとても役立ちますので是非会員の皆様にはご参加頂きたいと考えています。医療安全推進に皆で取り組んで行きましよう。

地域高齢者学級への 講師派遣事業のご紹介

平成 27 年度実績
泉いきいきサロン
4 月 12 日 (日) 午後 9 時～
内藤貴夫先生

徳 2 家具いきいきサロン
4 月 21 日 (火) 午前 10 時 15 分～
薬袋貴美先生

上積ふれあいいいきいきサロン
5 月 20 日 (水) 午後 1 時 30 分～
保坂達也先生

向町いきいきサロン
6 月 17 日 (水) 午前 10 時 30 分～

薬袋貴美先生

千塚西町いきいきサロン
6 月 19 日 (金) 午後 1 時 30 分～
飯野智先生

小松いきいきサロン
8 月 23 日 (日) 午後 1 時 30 分～
百瀬美紀先生

絆女性学級学習会
9 月 9 日 (水) 午後 1 時 30 分～
植松俊彦先生

今後の予定
玉諸高齢者学級
9 月 30 日 (水) 午後 1 時 30 分～
久保田賢治先生

山梨県退職公務員連盟研修会
10 月 10 日 (土) 午後 1 時 30 分～
薬袋貴美先生

城南いきいきサロン
10 月 15 日 (木) 午後 1 時 30 分～
浅川由実子先生

北東いきいきサロン
10 月 25 日 (日) 午後 1 時～
数野庸先生

相川いきいきサロン
12 月 6 日 (日) 午後 1 時～
渡邊泉先生

千塚高齢者学級
平成 28 年 3 月 10 日 (木)
午後 1 時 30 分～
野口政宏先生

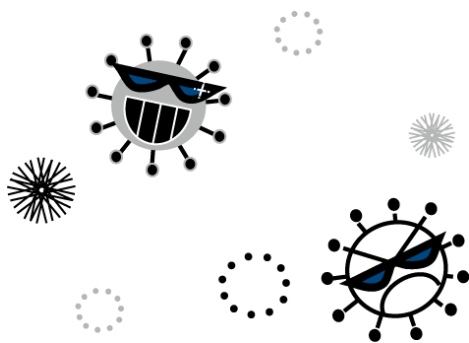
講師派遣依頼について

(公社) 甲府市薬剤師会事務局
までお電話にてお問い合わせく
ださい。(連絡先 055-236-5200)

インフルエンザについて

毎年寒くなると注意報や警報がだされるインフルエンザですが、皆様どのように対応されているでしょうか？近年では新型や強毒性といった今までにない脅威の流行も懸念されています。

インフルエンザは細菌よりもさらに小さなインフルエンザウイルスという病原体により引き起こされる急性感染症で、咳やくしゃみなどにより人から人へうつっていきます。



ここではインフルエンザにかかってしまった時の治療薬についてご紹介したいと思います。

飲み薬：オセルタミビル（タミフル）、アマンタジン（シンメトレル等）

吸入薬：ザナミビル（リレンザ）、ラニナミビル（イナビル）

注射薬：ペラミビル（ラピアクタ）

昨年は日本発の抗インフルエンザ薬ファビピラビル（アビガン）の販売が承認されました。

現在ではさまざまな服用方法のインフルエンザ治療薬がありますが、いずれの場合も発症後 48 時間以内の投与が必要なために、適切な受診と服薬が重要となります。大切なのはしっかりと治療することです。

また一部の漢方薬においてもインフルエンザ治療に効果があることが報告されています。副作用が少ないと思われがちですが、漢方薬も薬なので体質に合わなかったり、使い方を間違えると副作用がおきることもあります。医師による診断の元、適切に使用してください。



手洗いについて

帰宅後の手洗い、ただ洗うだけになっていませんか？重要なのはバイ菌や汚れをきちんと落とすことです。意外と洗い残しが多いのが手の甲や手首、指の間や指先、爪の隙間です。これらの部分は特に意識して、目に見えないけどウイルスやバイ菌もきれいに洗い流してください。

マスクの着用について

風邪や花粉対策などでも何かと使用する機会の多いマスクですがきちんと着用できていますか？マスクにも正しい使用方法があります。一般的なプリーツタイプマスクの正しい着用方法をご紹介します。①プリーツ（ひだ部分）を伸ばしてマスクを広げる。②顔にあて鼻の形にノーズピースを合わせる。③顔の形にフィットさせ、顎まで覆うようにしがら耳にひもをかける。肌との接着面に隙間があるとウイルスなどの進入の原因になりますのでサイズの合ったものを選んでください。また使用中やはずす時には口を覆うフィルター部分には触れないように気をつけましょう。

でもやっぱりインフルエンザ感染による高熱や節々の痛みに悩まされたくはないですね。流行情報がでたら無用な人ごみへの外出をひかえたり、まめながい・手洗いで予防を心がけてください。規則正しい生活と栄養ある食事、十分な睡眠でインフルエンザに負けないで今シーズンを乗り切りましょう。

創刊号 2015年9月25日

発行/（公社）甲府市薬剤師会
編集担当/会報編集委員会